



心の時代



ドジャーズの大谷選手はグラウンドに落ちているごみを拾うことはよく知られています。小学生に「大谷選手は何を拾っているのか」を尋ねてみました。「お菓子のゴミ?」「プラスチックごみ」等ごみの種類をあれこれ並べましたので、ごみの種類ではないことを伝えました。「ゴミを拾う意味」を考えてもらいました。そして「運を拾っている」ことを聞いたことがあるという発言が出ました。「どうして運を拾ったことになるのか?」を訊くと黙ってしまいました。文系の高三生にも授業中、同じ質問をしました。答えたのは一人だけでした。

最近どうも気になることがここにあります。「知っている」「知らない」で済ませてしまい、それは「どうして」ということが欠けているのです。考えない習慣が身についてしまっているように見受けられます。

どうして「ごみを拾うことが運を拾うことになるのか?」しばらくしても黙ったままで答えが出ませんでした。「情けは人の為ならず」です。利他の精神です。人のために動くとその回りが回り回って自分に返ってくるという話です。それが「運を拾うということなんだよ」と話をしました。小学生はそれを聞くと「へえ～そうなんだ」となって話が終わりになりました。教えている方も何らかの反応を待っていますので残念な気持ちになりました。

こういったことは何を意味しているのか。受け身になって考えない習慣がさらに進んだように感じました。スマホは便利です。わからないことは調べればすぐ答えが出てきます。自分で考えずに済むことが多くなってきたのです。調べればすぐわかるということが日常化して来たことにつながっています。今後 AI が日常化されると AI に尋ねることが益々この傾向を進ませるのではないかとされます。そして益々考えない習慣が日常化されるのではないのでしょうか。スマホや AI は使い方が求められます。そうでないとスマホ、AI 依存症になってきます。スマホから手が離せない人の姿を電車や街灯でも見られます。そんな光景はみんな決していいものとは思ってはいませんが気が付くと自分の話になっていませんか。いつのまにかスマホや AI に使われるようになるかもしれません。

ですから「なんで」「どうして」を日常生活の中で子供に持たせることが益々大切なこととなります。そのためにも「どうしてだと思う?」という問いかけが大事になります。私も意識をして授業中に話をするようにしています。日常生活でも意識して「どうしてだろう」という問いかけを心掛けてみてはいかがでしょうか。その際は必ず出た意見を否定せず受け止めることが大切です。「なるほどそういう考えもあるね」と答えることを意識してみてください。その上で「こういった考えもあるけれどどうだろう」と訊いてみるのが大切です。

最近、日本史の授業をしています。「なぜ」その出来事は起こったのかを因果関係を通して話をし、生徒に理解をしてもらった後で、彼らに前で白板のカッコ問題の説明をしてもらうようにしています。そんな中で納得がいけない場合「どうして〇〇はこうしたのですか?」という質問がよく出てくるようになりました。質問に対して「君はどう思う?」ということを経験し、意見を聞いた後に話をするようにしています。まだ黙っている生徒もいますが、大学でのゼミはその姿勢がないと成り立たないことを伝えていきます。

何より自分で考えて、判断をして、行動するのが大人ですからスマホ、AI の意見に従うだけでなく自分のない人間になってしまいます。「考えること」は人間の特権です。自分の価値観、自分の考え、自己存在は自分で作り上げなければなりません。「人間は考える葦である」というパスカルの言葉が浮かんできました。

令和 6 年 11 月

